

本日の映画や監督さんのお話について、ご意見・ご感想をお願いいたします。

- 観るたびにまた違うところの震えがあります
清水さんの
生きて生きて生きてが震えました
みんなみんな生きてほしい
普通に生きることも死ぬことも難しくなっている世界になってきて、祈りに近い思いです
- それぞれの立場での、考えが理解できました。
- お1人お1人の物語に胸を打たれました。清水さんの共に震える…同じ時間を生き合う。この言葉にも胸が震えました。地域で当たり前前に生きること、家族が普通に一緒に過ごす時間が、子どもが小さい時は何の不安や疑問もなかったのですが、共に歳を重ねて行く中で、生活の場の変化には悩みは膨らんできました。どこを終の住処に選んで行くのか…。障害をかかえ生きる多くの人々の住まいを保障する制度が確立し、当たり前誰かが利用出来ないと、やはり親も兄弟も、自分の人生を自立して歩けないと。改めて深く考える時間を持つてました。貞末さんの地域の自立を支えているのは障害のある人々と言う言葉に勇気ももらえました。素敵な企画をありがとうございました。
- 監督さんが今回の映画について映像には出せなかった裏場面を解説してくださったこともあり、良いふりかえりができました。ありがとうございました。
- 前作『普通に生きる』を未視聴のまま今回の上映会に参加しました。冒頭から涙が止まらず、始終胸が詰まる想いで鑑賞させていただきました。特に誰かの死というものは非常にセンシティブで、割り切って考えることが難しく、画面の向こうの方々に感情移入しすぎてしまったかもしれません。美和さんが亡くなった後の小澤さんご夫妻の「子より長生きしなければと考えたことを後悔した」という言葉、育雄さんの病棟入所が決まった時の叫び、菜里子さんのご家族の訴え…何もかもが現実起こったことで、また今も様々な所で皆が課題として感じていることだと思います。私が映画の登場人物だったなら一体何ができただろうと考えても、制度がある程度整った状態で働き始めた身としては、小沢さん達の様なエネルギーを持って動いていなかったでしょうし、当事者家族の強い気持ちに甘えて流れに身を任せたいだろうと思います。普段あまりドキュメンタリー映画を観る機会は少ないのですが、得られるものが沢山ありました。貴重な機会を設けてくださりありがとうございます。
- とても勉強になりました。
これからも、映画制作、頑張ってください